

先生は高校生 中学生に指導



武生高で「アカデミア」

理数系の魅力伝える

県内の中学生が高校レベルの理数系の授業を体験する武高アカデミアが26日、越前市の武生高で始まった。同校の在校生が先生役となり、授業や実験の楽しさを伝えた。

文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定されている同校が毎年開いている。教える経験を通じて学力や知力の向上に役立てようと、昨年度から生徒が教壇に立っている。

27日までの2日間に理系、文系を問わず1、2年生の47人が先生役、18人が補佐役を務める。丹南地域や福井市、敦賀市の18中学校に通う2年生153人が教わった。生物は2年生3人が先生になり、ヒトの血球についてクイズ形式で説明。中学生3、4人と先

先生役の武生高生(左)から指導を受け、血球を観察する中学生。26日、越前市の同校

生役・補佐役1人ずつのグループに分かれ、顕微鏡で赤血球と白血球の大きさや量を観察しスケッチした。観察中もクイズを続けたり、高校の文系と理系の違いを説明したりと、和気あいあいの雰囲気です。和気あいあいの雰囲気です。和気あいあいの雰囲気です。

武生三中の佐竹拓海さんは「同じ目線で教えてもらって、話しやすいし面白い」と笑顔。先生役の西尾祐人さん(2年)は教育系の大学進学を視野に入れているそうです。「高校で習う単語ばかり使わず、かみ砕いて説明するように気をつけた。緊張したけど、教えてみると楽しい」と手応えを感じた様子だった。数学、物理、化学、地学の授業も行われた。(中坪佑香)